

やすおか 泰阜ダム

天竜川流域で古い歴史を持つダム

1935(昭和10)年に完成。

天竜川流域でのダム開発は、大久保発電所・南向発電所について泰阜ダム、平岡ダムが続く。

工事のために、三信鉄道(現飯田線)が敷設された。

日本の近代土木遺産(現存する重要な土木構造物2800選)に選定されている。



泰阜ダムと泰阜発電所



information

□ アクセス

天竜峡ICから10km

車→20分

□ 所在地

泰阜村～阿南町



戦時下の 建設

第二次世界大戦前の1932(昭和7)年から工事が始まり、完成は戦時下の1935(昭和10)年。戦時色が強まる中、中京圏の電力需要を賄うことを目的に、地形面と補償問題を考慮した結果、泰阜村の門島地区が選定された。堤高36.9m、最大出力52,500kwは、当時国内最大の水力発電所であった。

堆砂と洪水

土砂の河床への堆積とダムの堰上げに起因して、地元の人々は天竜峡の河床が上昇、洪水が頻発するようになったと訴え、ついに1950(昭和25)年の水害を契機に「泰阜ダム撤去」運動が起こった。堆砂率は1993(平成5)年で80.4%に達している。



(国土地理院の数値地図25000(地図画像)を使用)